

2026年6月16日

【XCR スプリントカップシリーズ 第3戦 / 秋田県大館市】
本州初開催の XCR スプリントカップ、XC-2 クラスは「GEOLANDAR」がトップ3 を独占!!



2026年は全7戦のカレンダーが組まれている、クロスカントリーとSUV車両で競われるラリーシリーズ「XCR スプリントカップ」。ウィンターラリーの2戦を終えて長めのインターバルをはさみ、第3戦が6月13日(土)に秋田県で開催された。発足5年目のシリーズは昨年まで北海道内を転戦して競われてきたが、今年は津軽海峡を越えて本州へ上陸。記念すべき本州での初開催は「第44回 どんぐりハチ公ラリー」、シリーズは新たな歴史の扉が開かれた。

東北を代表するラリーとして長い歴史を有する同大会は、東京の渋谷駅前にある像でもお馴染み「忠犬ハチ公」の故郷でもある大館市が舞台。市役所の比内総合支所を拠点に、5本のスペシャルステージ(SS)合計距離26.244kmが設けられた。路面はグラベル(未舗装路)だが、北海道とは異なり道幅が狭く、道の脇には沢が流れていてワンミスがリタイヤにつながる難しいロケーションだ。

中間のサービスをはさんで前半2回、後半3回のSSとなるが、道そのものは同一で走行方向が前後半で逆になるアイテナリー。つまり同じ林道を5回走ることから、終盤では轍が深く掘れることも予想される。さらに一部に舗装区間もあるため、未舗装区間との境目のギャップや、ところどころに道を横切って設けられているグレーチング(排水溝)も大きな段差となることから要注意だ。

大会はJAF東日本ラリー選手権の一戦でもあり、参加台数は全47台。そのうちXCRは5つのクラスに15台が出場、ヨコハマタイヤの「GEOLANDAR」装着車が7台とおよそ半数を占めている。その中で注目を集めたのは、今回から登場した2台のニューマシン。

CUSCO RacingはXC-2クラスに三菱・トライトンを投入、国内外で豊富なラリー経験を有する柳澤宏至選手/加勢直毅選手が駆る。一方XC-2Sクラスでは、前戦まで三菱・エクリプスクロスPHEVで参戦してきた浅井明幸選手/古川和樹選手組がアウトランダーPHEVにマシンをスイッチ。往年のWRC(世界ラリー選手権)を彷彿とさせるカラーリングも、鮮やかで目を惹いた。

7時に競技コースの下見を行うレッキがスタート、この時点で上空には青空が広がっていた。しかし、11時53分のSS1開始を待っていたかのように雨雲が来襲、雷鳴も鳴り響き時に大粒の雨が勢い良く落ちてきてしまった。路面はヘビーウェットへ転じ、滑りやすくタフなコンディションで戦われる展開になる。

そんな中、4.563kmのSS1でXCR勢のトップタイムを刻んだのがXC-2クラスの番場彬選手／宮本大輝選手組(ハイラックス)、これに0.9秒の僅差で続いたのが柳澤選手組で、「GEOLAMDAR」を装着するCUSCO Racing勢が速さを見せた。リポートとなるSS2では足をすくわれてコースオフを喫するXCR車両も現れる中、番場選手組が連続ステージベスト、柳澤選手組が2番手、さらにタイから参戦のMana Pornsiricherd選手／Kittisak Klinchan選手組(ハイラックス)も連続3番手タイムで続き、ヨコハマタイヤ勢がトップ3を独占するフォーメーションを固めていった。

中間サービスをはさんで前半の道を逆方向に走る後半のセクションに入ると、ラリーは一層サバイバルな様相を色濃くしていく。SS3では1台のXCR車両を含む4台がリタイヤを喫し、雨足は弱まったものの轍が深く掘れて滑りやすいコンディションの中、番場選手組が3連続ステージベストを獲得。

SS3のリポートとなるSS4を迎えたころには天候が回復して青空が再び広がったが、路面はウェットでタフなことには変わりはない。そんなSS4も番場選手が制したところで、競技運営団は路面状況の悪化を受けて最終のSS5をキャンセルすると決定。

4本のSSで競われた結果、番場選手組がXCR勢のトップで開幕戦以来の今季2勝目を飾り、XCR初参戦の柳澤選手組が準優勝でCUSCO Racingがワン・ツー・フィニッシュ。3位には前戦を制したMana選手組が入り、「GEOLANDAR」勢がXC-2クラスの表彰台を独占した。



このほか、XC-1クラスの惣田政樹選手／猿川仁選手(デリカD:5)、XC-3Sクラスの大塚祐樹選手／HANA選手(ライズ)も各クラスで優勝。XC-2Sクラスの浅井選手組は準優勝で、「GEOLANDAR」装着車はサバイバルラリーを1台もリタイヤすることなく戦い抜いた。



■ 番場 彬 選手 (CUSCO YH ジオランダー HILUX)

SS1を終えて、柳澤選手組と0.9秒の僅差だったのですが、柳澤選手のトライトンは今日がシェイクダウンのような感じだと思っていたので、その差が小さいことにちょっと驚きました。自分も雨でコンディションが悪化したことからペースを落としましたが、これはしっかり挽回しな

ければいけないとコ・ドライバーの宮本選手とも車内で話しました。SS2 は、より難しい路面でしたがペースアップ、柳澤選手も速くて思ったように差をつけられず前半を終えました。

サービスではタイヤの空気圧調整を行って、残りのステージも全てベストタイムを刻んで勝ってホッとしています。

本当に難しいコンディションの道でしたが、「GEOLANDAR」がしっかり走りを支えてくれて勝つことが出来ました。チームメイトでありライバルでもあるトライトンも進化してくるのは間違いないですが、このままシリーズ 5 連覇に向けて頑張ります。